

## 平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

安全で安心な居場所で小さな成功体験を積み重ねることで生徒を社会参画する市民として育て、社会に送り出すセーフティネットとしての学校をめざす。

- 1 個に応じた学習指導の工夫に努め、学力の向上を図る。
- 2 生徒の自己実現を支援する進路指導を推進する。
- 3 豊かな心や社会性を育む。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成及び教員の授業力の向上

(1) 「わかる授業」「できる授業」「魅力的な授業」をめざした、授業改善に取り組み、主体的に学習する力を身に付けさせる。

- ア 授業アンケート等を効果的に活用し、校内研修や公開授業など組織的な取り組みを推進する。
- イ 一人ひとりの「学習環境」を確保するため、授業規律の確立に努める。

※生徒向け授業アンケートにおける「授業の進捗や難易度」の肯定率を 2021 年度には 95%とする。(平成 30 年度 88%)

※生徒向け学校教育自己診断における「授業はわかりやすい」の肯定率を 2021 年度には 85%とする。(同 76%)

※教員向け学校教育自己診断における「授業改善」の肯定率を 2021 年度には 95%とする。(同 79%)

※生徒向け学校教育自己診断「授業規律」の肯定率を 2021 年度には 80%とする。(同 68%)

## 2 キャリア教育及び進路指導の充実

(1) 将来の自立や社会参加、進路実現につながるキャリア教育や進路指導を推進するため、カウンセリング及びガイダンス機能の充実に取り組む。

- ア 一人ひとりの生活背景から理解し、生徒に寄り添い、支援・指導を充実させる。
- イ 卒業生や企業、大学、専門学校等の職員からの聞き取りを通して、生徒一人ひとりに将来像を確立させる。
- ウ 教育課程に位置付けたキャリア教育科目を通して、良き社会人として素養を身に付けさせる。
- エ 一人ひとりの勤労観を育成するため、適切な進路情報を提供し、生徒の理解を深めさせる。

※生徒向け学校教育自己診断における「教職員のカウンセリングマインド」の肯定率を 2021 年度には 90%とする。(平成 30 年度 78%)

※生徒向け学校教育自己診断における「保健室など教室以外の所での居場所」の肯定率を 2021 年度には 80%とする。(同 65%)

※生徒向け学校教育自己診断における「進路情報周知」の肯定率を 2021 年度には 95%とする。(同 78%)

※保護者向け学校教育自己診断における「進路情報周知」の肯定率を 2021 年度には 95%とする。(同 80%)

※学校斡旋の就職内定率を 2021 年まで 90%以上を維持する。(同 100%)

## 3 豊かな心の涵養及び「社会の一員」としての自覚の醸成

(1) 特別活動や生徒会活動を通して、生徒の自己肯定感や自己有用感を醸成する。

- ア 行事や生徒会活動、部活動などを通して、集団の中で人と調和し成功体験を得られるよう、生徒が主体となる活動を支援する。
- イ 人間関係形成能力を育成するため、「挨拶運動」に取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断における項目「学校行事」の肯定率を 2021 年度には 90%とする。(平成 30 年度 79%)

※教員向け学校教育自己診断における項目「主体的な活動の支援」の肯定率を 2021 年度まで 90%以上を維持する。(同 92%)

※生徒向け学校教育自己診断における「挨拶の励行」の肯定率を 2021 年度には 90%とする。(同 79%)

(2) 生命の尊さに気づかせ、自他を認める態度や人格を育成し、社会の一員としての自覚と責任を醸成する。

- ア 様々な人権問題の解決をめざし、人権教育に総合的に取り組み、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。
- イ 支援や指導が必要な生徒に適切な対応を行うことができるよう、生徒支援体制を充実する。

※生徒向け学校教育自己診断における項目「人権学習」の肯定率を 2021 年度には 90%とする。(平成 30 年度 77%)

※教員向け学校教育自己診断における項目「人権教育の推進」の肯定率を 2021 年度まで 90%以上を維持する。(同 100%)

## 4 学校運営体制の確立及び人材の育成

(1) 迅速な意思決定により、機動力のある効率的な学校運営をめざす。

- ア 「学校組織運営に関する指針」に基づき、企画会議及び運営委員会を学校運営の核として位置づけた学校運営の確実な定着をめざす。
- イ 分掌や年次会議を充実させ、各組織間の連携を密にし、校務の効率化を図る。

※教職員向け学校教育自己診断における項目「分掌や年次の連携」の肯定率を 2021 年度には 80%とする。(平成 30 年度 71%)

※教職員向け学校教育自己診断における項目「会議の有効機能」の肯定率を 2021 年度には 80%とする。(同 75%)

(2) 次代を支える教員（ミドルリーダー・若手教員）の育成を図る。

- ア 教職経験の少ない教員を対象とした校内研修「フレッシュマンセミナー」の実施や教員の自主研修を実施し、人材の育成を図る。

(3) 再編整備計画を踏まえ、今後のⅢ部の在り方についての方向性を示す。

☆ これらの取組を通して、単位修得率の向上を図り、卒業生数の増加をめざす。

## 府立桃谷高等学校（Ⅲ部）

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年 11 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>○回答数 生徒：93名 保護者：9名 教職員：21名</p> <p>○生徒、保護者、教職員の診断結果の比較（得点の高い項目）</p> <p>「学校に対する項目」</p> <p>生徒：悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる。《81.7%》</p> <p>保護者：学校は教育情報を、保護者に提供する努力をしている。《100%》</p> <p>教職員：学校行事が生徒にとって魅力あるものとするために、工夫・改善を行っている。《95.2%》</p> <p>「教育活動に対する項目」</p> <p>生徒：教え方にさまざまな工夫をしている先生がいる。《84.9%》</p> <p>保護者：子どもは、授業が分かりやすく楽しいと言っている。《100%》</p> <p>教職員：生徒のレベルに応じた分かりやすい授業をつくる努力をしている。《100%》</p> <p>*「学校に対する項目」では、教員と生徒・保護者とのコミュニケーションに関する項目で肯定率が高かった。これは昨年度と同様で、日ごろから教員が生徒や保護者との連絡を密に行っていることが評価されたものと捉えられる。</p> <p>*「教育活動に対する項目」では、授業に関する項目が高かった。教員は生徒の状況を踏まえて授業を展開し、生徒・保護者はそれを肯定的に捉えている。特に、生徒が「教え方を工夫している」と捉えており、教員の授業づくりが、単に授業内容を簡単にするのではなく、「生徒が分かる・できる」という点から授業作りを進めていることがうかがわれる。</p>	<p>【第1回】令和元年7月3日（水）実施</p> <p>○「生徒一人ひとり抱えているものが違い生徒数（158人）分の課題があり、外部機関と連携しながら支援を行っている」という学校側の説明に対して、「『158通りの課題』に関して、外部機関に丸投げにならないような工夫はあるか」との質問があり、以下のように回答した</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報共有する機会として、SSWの職員室常駐など、細かく連携できるようにしている。</li> <li>・緊急性のあるものに関しては、職員会議等で報告・共有している。</li> </ul> <p>○「生野区では『やさしい日本語』の取組みを進めている。学校と連携したい」とのご意見をいただく</p> <p>【第2回】令和元年11月26日（火）実施</p> <p>○（報告に対して）「生徒と教職員の心と心の交流が感じられる」とのご意見をいただく</p> <p>○「SSW等との連携について工夫していることはあるか」との質問に対して以下のように回答する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SSWの勤務日については、その日のSSWのスケジュールについて事前に担当者で検討し対応いただいている</li> <li>・職員室に机があり、パソコンも使用でき、情報共有が行いやすい環境にある</li> </ul> <p>【第3回】令和2年1月29日（水）実施</p> <p>○教職員の丁寧な取組みの成果として、生徒たちが成長しているのがよくわかる。</p> <p>○評価指標と照らすと達成していない項目が多くあるが、細かい部分ばかり見ていると全体を見失う恐れがある。大きな面から評価をすることも必要</p> <p>○生徒をどう導くかを考え、充実した取組みがなされていると感じる</p>

## 府立桃谷高等学校（Ⅲ部）

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成及び教員の授業力の向上	<p>(1) 「わかる授業」「できる授業」「魅力的な授業」をめざした、授業改善に取り組み、主体的に学習する力を身に付けさせる。</p> <p>ア 「桃谷授業スタンダード」(授業モデル)に基づいた、授業づくりの推進</p> <p>イ 授業アンケート等を効果的に活用した組織的な取り組みの実施</p> <p>ウ 「学習環境」を確保するための授業規律の確立</p>	<p>(1)</p> <p>ア・「桃谷授業スタンダード」に基づいた研究授業や校内研修を行い、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善を進める。</p> <p>・T・Tを積極的に取り入れ生徒の個々の状況に応じた学習を支援する。</p> <p>イ・研究授業や公開授業期間を設定し、教員相互に授業に対する意見交換を行い、授業改善につなげる。</p> <p>・管理職による授業観察や授業アンケート結果を踏まえた教員の個別面談を実施し、授業者にフィードバックする。</p> <p>ウ・全教員がスマートフォン使用や私語などの指導の共通認識を深め、指導の徹底を図る。</p> <p>・「授業集中キャンペーン」を継続的に実施し、「授業規律」に対する生徒の意識向上を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・「桃谷授業スタンダード」に基づいた研究授業の実施</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「授業で自分の考えをまとめ発表する」の肯定率<b>65%</b> (H30:60%)</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」の肯定率<b>65%</b> (H30:63%)</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断「教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」の肯定率<b>90%</b>を維持。(H30:92%)</p> <p>イ・教員相互の授業見学を2回以上実施し全教員が各授業観察シートを提出する。</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断「他の教員の授業見学を行い授業改善を行っている」の肯定率<b>90%</b> (H30:79%)</p> <p>・管理職による授業観察を2回以上、教員の個別面談を2回以上実施</p> <p>ウ・生徒向け学校教育自己診断「授業規律」の肯定率<b>75%</b> (H30:69%)</p>	<p>(1)</p> <p>ア・初任者やインターミディエイト研修受講者(2年め等)の研究授業を実施。</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「授業で自分の考えをまとめ発表する」の肯定率<b>61.3%</b>。目標には達していないが、昨年度より上昇(○)</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」の肯定率<b>71.4%</b>。昨年度より大幅に上昇(◎)</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断「教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」の肯定率<b>85.7%</b>。昨年度より低下。次年度への課題とする(△)</p> <p>イ・教員相互の授業見学期間を11月から12月にかけて実施。期間を1度しか設定できず(△)</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断「他の教員の授業見学を行い授業改善を行っている」の肯定率<b>85.7%</b>。目標には達していないが、昨年度より上昇(○)</p> <p>・管理職による授業観察を全員1回以上、教員の個別面談を全員1回以上実施。(△)いずれも必要に応じて複数回実施</p> <p>ウ・引き続きスマートフォンの指導等を統一して実施</p> <p>・授業遅刻防止の観点から、年度途中より1限後及び3限後も立ち番を実施。(◎)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「授業規律」の肯定率<b>66.7%</b>。昨年度より低下。次年度への課題とする(△)</p>
2 キャリア教育及び進路指導の充実	<p>(1) キャリア教育や進路指導推進のためのカウンセリング及びガイダンス機能の充実</p> <p>ア 生徒の生活背景から理解した支援・指導の強化</p> <p>イ キャリアカウンセラーなど外部講師を活用した生徒一人ひとりの将来像の確立</p> <p>ウ 生徒・保護者への適切な進路情報の提供</p>	<p>(1)</p> <p>ア・家庭、中学校や前籍校、勤務先などの訪問や懇談週間を設定した生徒懇談などを通して生徒理解を深める。</p> <p>・長期欠席の生徒について、家庭訪問の充実を図り、個々の状況の把握に努める。</p> <p>・SCやSSWとの連携を充実し、外部機関を活用した生徒支援を実施する。</p> <p>・SCやSSWを講師とした教員対象の校内研修の充実を図る。</p> <p>イ・キャリアカウンセラーを活用するなど、生徒や保護者対象の進路説明会や個別指導などを実施する。</p> <p>・キャリアカウンセラーを講師とするなど進路指導に関する教員研修を充実させる。</p> <p>ウ・進路HRや個人面談などにおいて、個々に応じた進路情報を生徒及び保護者に積極的に提供する</p> <p>・進路だよりやⅢ部独自の進路指導室での指導を充実させるとともに、校内掲示板やHPなどを有効に活用し、情報の見える化を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・担任や進路部等による生徒の個別懇談の年2回以上実施する。</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率<b>85%</b> (H30:78%)</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の肯定率<b>100%</b> (H30:91%)</p> <p>・生徒支援を充実させるために、SC、SSWを有効に活用する</p> <p>イ・キャリアカウンセラーを活用した進路指導の充実</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「将来の進路を考える機会がある」の肯定率<b>80%</b> (H30:76%)</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断「望ましい勤労観職業観がもてるよう進路指導を行っている」の肯定率<b>85%</b> (H30:80%)</p> <p>・学校幹旋の就職内定率<b>90%</b>以上 (H30:100%)</p> <p>ウ・生徒向け学校教育自己診断「進路情報周知」の肯定率<b>85%</b> (H30:76%)</p> <p>・保護者向け学校教育自己診断「進路情報周知」の肯定率<b>95%</b> (H30:80%)</p>	<p>(1)</p> <p>ア・担任や進路部等による生徒の個別懇談を実施。</p> <p>・SC、SSWともに予定回数勤務いただく(今後の予定を含む)。(○)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率<b>81.8%</b>。目標には達していないが昨年度より上昇(○)</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の肯定率<b>90.5%</b>。昨年度より低下。次年度への課題とする(△)ただし、否定的回答者数は変わらず。</p> <p>・SCには生徒面談、SSWには生徒対応と合わせて関係機関との連携に尽力いただいた</p> <p>・7月実施の生徒支援に係る研修では、SSWに福祉に関わる講義をしていただき、教員の見識を深めた。(◎)</p> <p>イ・キャリアカウンセラーを計画通り16回活用。個別の進路相談や進路指導を行っていただいた。(◎)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「将来の進路を考える機会がある」の肯定率<b>75.3%</b>。昨年度とほぼ変わらず。引き続き課題とする。(△)</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断「望ましい勤労観職業観がもてるよう進路指導を行っている」の肯定率<b>76.2%</b>。昨年度より低下。次年度への課題とする(△)</p> <p>・学校幹旋の就職内定率<b>90%</b> (9/10)。残りの1名は現在指導中。(◎)</p> <p>ウ・6月に進路分野別ガイダンスを実施。職業訓練校と専門学校3校、卒業生3名とキャリアカウンセラーでブース形式で行う。(◎)</p> <p>・進路だよりを12回発行。うち5回は卒業生のインタビュー。(◎)</p> <p>・保護者を含めた、就職・進学説明会を実施</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「進路情報周知」の肯定率<b>74.2%</b>。周知は行っているものの昨年度より若干低下(△)</p> <p>・保護者向け学校教育自己診断「進路情報周知」の肯定率<b>100%</b>。(◎)</p>

府立桃谷高等学校（Ⅲ部）

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 豊かな心の涵養及び「社会の一員」としての自覚の醸成</p>	<p>(1)特別活動や生徒会活動を通じた生徒の自己肯定感・有用感の醸成と居場所づくり                  ア 学校・クラスなどへの帰属意識の向上                  イ 行事や生徒会活動、部活動などの活性化と生徒が主体となる活動の支援                  ウ 人間関係形成能力を育成のきっかけとするための「挨拶運動」の実施</p> <p>(2)生命の尊さに気づかせ自他を認める態度や人格の育成                  ア 様々な人権問題の解決をめざした総合的な人権教育の推進                  イ 災害時に自らの命を守る行動ができるよう安全指導の徹底</p>	<p>(1)                  ア・生徒の学校への帰属意識が高まるよう総合学習やLHRの実施方法・内容を改善する。                  イ・多くの生徒が参加できるよう、学校行事の実施方法を工夫し一層の充実を図る。                  ・始業式や終業式、生徒集会などにおいて「部活動紹介」や「各種大会・発表会の受賞者紹介」を積極的に行う。                  ウ・校内において教員が挨拶を励行し、登下校時の「挨拶運動」に取り組む。</p> <p>(2)                  ア・「人権教育年間計画」に基づき、教科や特別活動など教育活動全体で人権教育を実施する。                  ・合格者説明会、受講指導等を利用し、本名指導を行う。                  ・道徳教育推進教師を中心に、Ⅲ部における道徳教育の在り方について検討を進める。                  イ・日常的に安全指導の充実を図り、災害時の避難行動について理解できるよう、実践的な避難訓練の実施を行い、生徒の安全に関する、意識の向上を図る。                  ・校内掲示等、安全に対する生徒の意識向上を図る。</p>	<p>(1)                  ア・生徒向け学校教育自己診断「学校に行くのが楽しい」の肯定率70% (H30：67%)                  イ・生徒向け学校教育自己診断「学校行事はみんなが楽しく行えるように工夫している」の肯定率80% (H30：79%)                  ・教職員向け学校教育自己診断「部活動の活性化について工夫している」の肯定率85% (H80：79%)                  ウ・生徒向け学校教育自己診断「挨拶の励行」の肯定率80% (H30：80%)</p> <p>(2)                  ア・生徒向け学校教育自己診断「人権の大切さについて学ぶ機会がある」の肯定率90% (H30：77%)                  ・生徒向け学校教育自己診断「命の大切さやルールについて学ぶ機会がある」の肯定率85%(H30：80%)                  ・12月末までに次年度の道徳教育計画を作成                  イ・生徒向け学校教育自己診断「災害時の避難行動について具体的に知らされている」の肯定率90% (H30：75%)</p>	<p>(1)                  ア・週1回のホームルームを実施。行事に向けた検討や準備などクラスで協力して行った。(◎)                  ・総合的な学習の時間や学校全体で集まる場合にも、いったんホームルーム教室に集まり、連絡等を行ったうえで移動している。(◎)                  ・生徒向け学校教育自己診断「学校に行くのが楽しい」の肯定率60.2%。取組みを進めるものの昨年度より低下。引き続き改善を検討する(△)                  イ・遠足(5/10)、体育祭(6/20)、文化祭(11/9)、修学旅行(11/20～22沖縄)、芸術鑑賞(12/12)、クラスマッチ(球技大会)(1/29)を実施。(◎)                  ・4月の新入生オリエンテーションで部活動紹介の冊子を配付。生徒や顧問による紹介、勧誘を行った(◎)                  ・軟式野球部：全国3位、近畿大会出場、大阪定通総体優勝。バスケットボール部：2部準優勝、軽音楽部：大阪府高等学校定時制通信制生徒秋季発表大会定通教育研究会賞(◎)                  ・生徒向け学校教育自己診断「学校行事はみんなが楽しく行えるように工夫している」の肯定率74.2%。様々な取組みを行うものの昨年度より低下。(△)                  ・教職員向け学校教育自己診断「部活動の活性化について工夫している」の肯定率76.2%。昨年度より低下。次年度への課題とする(△)                  ウ・当番を決め、生徒の登校時及び下校時に玄関前に教員が立ち挨拶運動を実施。当番以外の教員も多数参加。(◎)                  ・生徒向け学校教育自己診断「挨拶の励行」の肯定率79.8%(○)</p> <p>(2)                  ア・人権ホームルームを計画通り3回実施(5月、11月、1月)。(○)                  ・生徒向け学校教育自己診断「人権の大切さについて学ぶ機会がある」の肯定率76.1%。(△)参加体験型の学習や外部講師を招く等、様々な工夫を行い、人権HR実施後の生徒のアンケートでは高評価を得ている。                  ・生徒向け学校教育自己診断「命の大切さやルールについて学ぶ機会がある」の肯定率81.7%。昨年度より少し上昇。(△)                  ・7月に交通安全ホームルームを実施。VR機器を借りてきて体験を行い、命の大切さやルールについて考える機会を持った。(◎)                  ・道徳教育計画については未完成(△)                  イ・10月24日に火災を想定した避難訓練を実施(前期は雨天で実施できず)。(○)                  ・校内掲示については引き続き検討。(△)                  ・生徒向け学校教育自己診断「災害時の避難行動について具体的に知らされている」の肯定率73.1%。昨年度より低下。次年度への課題とする(△)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 学校運営体制の確立及び教職員の資質向上</p>	<p>(1)学校運営体制の充実及び教職員の資質向上                  ア 運営委員会を核とした学校運営の定着                  イ 分掌等組織の会議の充実と組織間の連携を図った校務の効率化</p> <p>(2)次代を支える教員(ミドル・若手教員)の育成                  ア 教職経験の少ない教員を対象とした校内研修「フレッシュマンセミナー」の実施や校外研修成果の共有化</p> <p>(3)今後のⅢ部の在り方について議論の開始</p>	<p>(1)                  ア・学校組織の位置付けについて周知を図り、組織的な運営の重要性の理解を深める。                  イ・分掌会や年次会、委員会などの意見を組織間において迅速な情報共有に努め、会議の効率化を図り会議間の連携を深める。</p> <p>(2)                  ア・管理職や中堅教員が講師となり、経験年数の少ない教員を対象とした「フレッシュマンセミナー」を開催し、人材育成を図る。                  ・職員会議等で校外研修の伝達講習を行い、情報を共有し資質向上につなげる。                  イ 「将来構想会議(仮称)」を立ち上げ、今後のⅢ部の在り方について検討を始める。</p>	<p>(1)                  ア・教員向け学校教育自己診断「会議の有効機能」の肯定率75%を維持 (H30：75%)                  イ・教職員向け学校教育自己診断「分掌や年次の連携」の肯定率75% (H30：71%)</p> <p>(2)                  ア・「フレッシュマンセミナー」の開催                  ・教員向け学校教育自己診断「研修成果の伝達機会の設定」の肯定率90% (H30：96%)                  イ・「将来構想会議(仮称)」の立ち上げ</p>	<p>(1)                  ア・基本的に曜日を固定して会議を開催。(○)                  ・教員向け学校教育自己診断「会議の有効機能」の肯定率61.9%。昨年度より低下(△)                  イ・運営委員会(毎週月曜日)で分掌等から出される案について議論。(○)                  ・教職員向け学校教育自己診断「分掌や年次の連携」の肯定率85.7%。昨年度より大幅に上昇(◎)</p> <p>(2)                  ア・「フレッシュマンセミナー」を計画通り7回実施。4年めの教員が、講師として自らの実践について話をした。(◎)                  ・職員会議で研修成果の報告を実施。                  ・教員向け学校教育自己診断「研修成果の伝達機会の設定」の肯定率76.2%。昨年度より大幅に低下。次年度への課題とする(△)。複数の教員から参加した研修内容について全体で報告したいと申し出がある等、伝達の必要性についての理解は深まっている。                  イ・「将来構想会議」を2回実施。(○)</p>